

Takahashi Masaki

タカハシ・マガジン Vol.9



完遂。

やりきる

高橋まさきは、

磨く つなぐ 創る

高橋まさき後援会 役員名簿

役 職		(順不同・敬称略)					
顧 問		南 義弘	石澤 義文	橘 慶一郎			
		穴田 甚朗	川村 人志	塩谷 雄一			
参 与		横田 安弘	井村 昭彦	荒井 公夫			
		岡本清右衛門	杉江 幸男	永田 義邦			
		本多 剛治	山本 務				
会 長		山下 清胤					
副 会 長		稲垣 晴彦	菅野 克志	今川美千子			
		上田 久之	上野 宏芳	浦田 一郎			
		大井 一博	大坪 洋輔	川西 邦夫			
		木本 博之	小山 智克	酒井 敏行			
		柴田 治之	田井 佳夫	高木 章裕			
		瀧川 正人	辻 やす子	野尻 晴一			
		羽田 純	開 章夫	山口 敏雄			
		山口 正志	吉岡 周				
幹 事 長		高畠 義一					
副幹事長		狩野 安郎	松嶋 浩二	角玄 富雄			
		張田 真	二口 真	宮越 一郎			
		米澤 陽子					
会 計		吉井 治					
監 事		田辺 千秋	中村 絢一				

(2021年4月17日現在)

高橋まさきプロフィール

生年月日	昭和29年 5月23日	高岡市生まれ
趣 味	読書、文具集め、友人たちとの語らい	
平成13年1月	省庁再編後の総務省で、情報通信政策局地域放送課長	
平成14年1月	総務省自治財政局財務調査課長	
平成14年7月	新潟県副知事	
	中越地震の復旧・復興に携わる。	
平成18年4月	総務省統計局統計調査部長	
平成19年7月	総務省大臣官房審議官(税務担当)	
平成20年8月	財団法人地域創造常務理事	
	芸術文化を通じた創造性豊かな地域づくりを推進	
平成21年7月	高岡市長	
平成25年4月	富山県市長会会長(～平成27年5月)	
同年5月	全国市長会北信越支部長(～平成26年5月)	
同年7月	高岡市長2期目就任	
平成26年6月	全国市長会副会長(～平成27年6月)	
	全国市長会都市税制調査委員会委員長(～現在)	
平成27年6月	全国市長会相談役(～現在)	
平成29年7月	高岡市長3期目就任	

高樹会 役員名簿

役 職		(順不同・敬称略)					
顧 問		南 義弘	石澤 義文	川村 人志			
		塩谷 雄一	山下 清胤				
相 談 役		横田 安弘	井村 昭彦	穴田 甚朗			
会 長		永田 義邦					
副 会 長		荒井 毅	稲垣 晴彦	上田 久之			
		大井 一博	岡本清右衛門	川西 邦夫			
		菅野 克志	高木 章裕	多田 慎一			
		釣谷 宏行	山口 正志	山本 務			
		吉岡 周					
幹 事 長		本多 剛治					
幹事長代行		田辺 千秋					
副幹事長		在田 吉保	稲田 祐治	今川美千子			
		北村 彰浩	竹中 伸行	中田 優二			
		西田 隆文	西村 博邦	増岡 一郎			
		吉井 治					
会 計		鷺山 浩一					
監 事		中村 絢一	山口 敏雄	吉岡隆一郎			

(2021年4月17日現在)

高橋まさき後援会 支部長名簿

(順不同・敬称略)

下関支部	米島 義三	福田支部	森田 和夫	西条支部	藤田 晴久
二塚支部	小栗 久雄	立野支部	杉本 進	成美支部	高井 清高
太田支部	増井 俊一	能町支部	橋本 善明	平米支部	和田 徹
中田支部	山岸 和夫	小勢支部	広地 功信	古府支部	牧野 光男
石堤支部	橋 信一	横田支部	佐賀 儀明	福岡支部	井村 昭彦
東五位支部	前田 義弘	木津支部	月安 幸三	博労支部	古國府信二
野村支部	大庭 和之	吉久支部	上埜 進	正 柔 会	吉村 英男
戸出支部	松嶋 浩二	伏木支部	坂 廣志	女性部会	辻 やす子
牧野支部	大坂 昭輔	国吉支部	杉本 孝之	青年部会	菅野 克志
佐野支部	浦田 一郎	万葉支部	中井 隆行		
川原支部	下山 実	定塚支部	山達 六夫		

(2021年4月1日現在)



「高橋まさき
公式ホームページ」を
ご覧ください。

まさきの
活動日誌
更新中!

[ホームページ](http://www.takahashi-masaki.com/) <http://www.takahashi-masaki.com/>

お問い合わせ

高橋まさき後援会

〒933-0912 高岡市丸の内1-40 高岡商ビル 7F

TEL:0766-26-6035 FAX:0766-26-6008

2021年4月発行

高橋まさき後援会、高樹会の皆様、これまで3期12年にわたって私の活動をお支え頂き、ありがとうございました。

コロナ禍への対応

新型コロナウイルス感染症は、今年に入って首都圏などで緊急事態宣言発出、ワクチン接種開始など、新しい局面を迎えています。宣言解除後の人々の流れに留意しながら、引き続き感染拡大防止策の徹底をお願いします。また、ワクチンの供給を前提に、接種を円滑に進めるとともに、コロナ禍の下で打撃を受けている方々へのきめ細かい対応に努め、一日も早いコロナ禍からの脱却を目指してまいります。

3期12年を振り返って

■目指したもの

市長就任以来、私は「元気なふるさと高岡」づくりに全力投入してきました。その実践として、**市民の力**が生み出す**文化のエネルギー**を**創造的**に発揮して、活力に溢れた地域を構築したいと考え、「**文化創造都市構想**」を提唱しました。この考えは、現総合計画の「**市民創造都市 高岡**」に結実しました。

■創造の基盤づくり

まず、市民生活や地域経済を支える基盤づくりが進みました。

北陸新幹線開業を契機として、新高岡駅、高岡駅及びその周辺の整備が進み、このエリアへ商業機能やホテル・マンションなどの交流・居住機能をはじめ、高次都市機能の集積が図られました。また、これらにアクセスするため、北陸道高岡砺波インター設置、東海北陸道、能越道等、高速道路や基幹道路網の整備が大きく進展しました。これらに伴い、ICパークなどの産業基盤に企業の立地が進みました。

高岡の歴史文化にも磨きがかかりました。国史跡（利長公墓所や高岡城跡）、重要伝統的建造物群保存地区（従来の山町筋に加え、金屋町、吉久）、国名勝（おくのほそ道の風景地「有磯海」）、重要文化財勝興寺の修復完成、ユネスコ無形文化遺産登録（高岡御車山祭）、2つの日本遺産認定（町民文化「人、技、心」、北前船）など枚挙にいとまがありません。

■創造の活動とひとづくり

これらの基盤を活かして、新しい産業づくりも活発になり、海外への展開や創業比率の向上が進んでいます。

新高岡駅は、飛騨高山や白川郷、能登和倉や氷見への高速バス発着点として、「飛越能の玄関口」の機能を発揮しています。

歴史・文化資源を活かした観光拠点として、御車山会館や藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーを設置したほか、古民家再生の体験型宿泊施設やユニークな飲食店がオープンしています。万葉歴史館も展示機能を充実しています。

各地区のコミュニティセンター・公民館などを活用して、多機能な地域自治活動の展開を推進しています。

これからの人口減少社会では、市民一人ひとりの力を高めていくこと、とりわけ次代を担う子ども達の育成が、今こそ喫緊の課題です。小中学校の学校再編とともに、小中一貫教育、教育のデジタル化、ICT機器の導入などを推進してまいります。

■これからの課題

懸案であった財政健全化の取り組みは、皆様のご理解と協力を頂き、概ね計画通りに進捗しています。将来の投資的事業遂行も勘案し、公共施設等整備改修基金を創設、10億円を積み立てることができました。

まちなかの賑わいづくりが課題です。リノベーションまちづくり事業や再開発事業などを促進してまいります。御旅屋通りなどで5G等の情報通信技術を取り込んだ賑わい創出の試みを進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症は、これまで社会で進行していたリモート・非接触型社会の到来やデジタル化などの潮流を一気に加速しました。経済・企業社会や地域社会の至る所でキャッシュレス決済や在宅勤務の定着、ロボット技術の導入が急速に進み、5G通信技術の運用も開始されています。

これら情報化の潮流とともに、水素エネルギーはじめ環境・脱二酸化炭素の課題に挑戦するなど、**次代から共感**を得られる**持続可能なビヨンド・コロナ社会**を目指し、次期総合計画の策定に取り組んでまいります。

高岡市長 **高橋 まさき**

磨く ～ものづくりの技を磨く～

ものづくりの技は、高岡のDNAとなって、高岡の産業と生活文化の基礎となり、今に息づいています。伝統の技術は新たな伝統工芸品として評価されています。その集大成として、開町400年を記念し、市民の浄財で「平成の御車山」が製作されました。伝統技術を超精密3Dプリンターなど先端技術と融合させて、国宝法隆寺釈迦三尊像復元（伝統工芸産業復興1000年プロジェクト）や国宝薬師寺東塔相輪修復などが実現し、高岡のものづくりの高い技術水準が世界に示されました。若い職人・作家達もGO FOR KOGEI事業など、新しい工芸品、ものづくりに挑戦しています。



金屋町金属工芸工房「かんか」開設
(2010年9月)



工芸都市高岡クラフトコンペティション
30回記念展(2016年6月)



平成の御車山完成(2018年4月)



GO FOR KOGEI 事業(2020年9月)



「越中福岡の菅笠」国の伝統的工芸品
指定(2017年11月)

伝統工芸産業再興1000年プロジェクト 釈迦三尊像再現プロジェクト



東京藝術大学との連携により、高岡の鑄造技術と古色仕上げで限りなく同質なものに複製しました。

法隆寺再現釈迦三尊像展
(2017年3月)



先端技術と伝統技術の融合による 文化財修復拠点化事業



3Dデータをもとに、原型製作、鑄造を行い、経年変化による質感も着色で表現しました。
薬師寺東塔相輪修復公開(2019年1月)

新しい産業基盤の整備

2019年3月に分譲が完了したICパーク



農業・産業基盤の整備

ICT技術を活用したスマート農業が期待されます。

高岡市のクボタファーム紅農友会が、生産技術革新部門の最高賞である農林水産大臣賞を受賞。(2021年1月)



磨く 歴史都市高岡 ～歴史・文化資産を磨く～

高岡の歴史の中でわたしたちが大切にしてきた文化財などが、次々と高い評価を受けました。歴史的まちなみの重伝建地区(※)はこの間に2件が新たに選定され、計3件、我が国でも有数の歴史的まちなみ保有都市となりました。国指定史跡「高岡城跡」、国名勝「おくのほそみちの風景地 有磯海」(雨晴海岸一帯)など、高岡の歴史文化資産に厚みが加わりました。豊かな歴史文化資産の蓄積をストーリーに組立て、我が国初めての「日本遺産」として「加賀前田家ゆかりの町民文化の花咲くまち高岡一人・技・心一」が認定されました。さらに「北前船」をストーリーとした日本遺産にも認定されています。

(※)重伝建地区「重要伝統的建造物群保存地区」のこと。



おくのほそ道の風景地「有磯海」国名勝に指定(2014年3月)



高岡古城公園が国史跡に指定(2015年3月)



日本遺産サミットin高岡(2018年9月)



伏木気象資料館リニューアルオープン(2017年3月)
(旧伏木測候所、越中国守館跡とされる)



金屋町が重伝建地区に選定(2012年12月)



吉久が重伝建地区に選定(2020年12月)

日本遺産認定

日本遺産とは、地域のもつ歴史的魅力や特色を通して、日本の素晴らしい文化や伝統をわかりやすく、面白く伝えるストーリーのこと。2015年に始まり、これまでに全国で83のストーリーが認定されています。高岡市は、2つストーリーが日本遺産に認定されています。



(上)高岡古城公園
(右)国宝瑞龍寺ライトアップ

「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人・技・心一」が日本遺産に認定(2015年4月)



日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に本市の文化財が追加認定(2018年5月)



(上)高岡商工会議所伏木支所
(左)伏木北前船資料館

歴史都市高岡 ～歴史・文化を活かす～

豊かな歴史文化資産は、市民の意識(シビックプライド)の向上や観光資源としての活用が期待されています。平成21年は、高岡の「開町400年」の年、多彩な記念行事が盛大に開催されました。ユネスコ無形文化遺産登録、国の重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」を常時展示する御車山会館は、市民ばかりではなく、多くの観光客が訪れる観光拠点となっています。

大伴家持生誕1300年となる平成29年には、創作演劇「大伴家持」の制作をはじめ、記念行事に取り組みましたが、翌々年には新しい年号として、万葉ゆかりの「令和」が選ばれ、改めて、令和の時代の「万葉ふるさとづくり」がスタートしました。

高岡の豊かな歴史と自然は、これら高岡ならではの文化を育て、文化の力が地域を活性化し、活力ある市民と地域が新たな文化を創造する、「文化創造都市」の取り組み進めてきました。



大伴家持生誕1300年記念
創作演劇「大伴家持」剣に歌に、夢が翔ぶ！」
(2017年11月)



こしのくに国府サミットin高岡
(2019年7月)



高岡万葉まつり 高岡版「梅花の宴」
(2019年10月)



高岡御車山会館開館(2015年4月)



高岡御車山祭がユネスコ無形文化遺産登録に決定(2016年12月)

重要文化財 勝興寺保存修理事業

平成10年に始まった勝興寺保存修理事業は、23年の年月を掛け令和3年3月に完成。本堂は、国宝・重要文化財に指定されている堂宇では地方寺院最大級、今回完成した(第2期工事)本坊を構成する大広間や書院などは瀟洒な造りで、特に金箔張りの奥書院など、盛時の姿が偲ばれる。完成後は、建築価値のみならず、寺宝の公開、勝興寺の役割、寺格などの歴史価値を観光資源としても活用していきます。



(上)唐門
(右)大修理が完了した壮麗な伽藍



最古の建物 大広間「上段の間」



奥書院「金の間」



「みんなで歌おう
1000人の高岡第九」
(2012年5月)

つなぐ ～教育・人づくり～

人口減少の中、高岡市が将来に向かって持続可能なまちであるためには、その担い手たる「ひと」に焦点を当てた施策推進が不可欠です。まちなかに設けた「子育て支援センター」や「子ども広場」は多くの子育て世代の皆さんに利用頂いています。次代を担う子ども達の学びの場である小中学校の再編、小中一貫教育、教育のICT化・デジタル化をはじめとする教育改革が本格的にスタートしました。

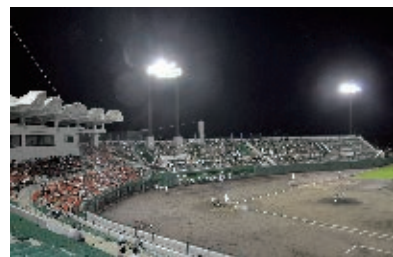
子どもから高齢者に至るまでの人生100年時代の生涯教育や、オリンピック金メダリスト登坂選手を生んだスポーツ環境の充実と市民参加型スポーツの振興を図りました。



登坂絵莉氏へ高岡市民栄誉特別賞贈呈
(2016年9月)



金メダル
獲得パレード



2015年5月に開場した高岡西部総合公園
野球場



県西部6市が協力して、王貞治氏が提唱する第26回世界少年
野球大会富山大会を開催(2016年8月)



慶応義塾大学SFC研究所の調査
研究事業による遠隔教育の実施



ICT活用教育(タブレット端末整備)



国吉義務教育学校
小・中学校をつなぐ渡り廊下



御旅屋セリオ子育て支援センター開設7ヵ月で
利用者1万組を達成(2011年9月)



オタヤ子ども広場運用開始(2020年6月)



御旅屋セリオにeスポーツ拠点施設
「Takaoka ePark」オープン(2020年4月)



高岡市スポーツ健康センター竣工
(2013年11月)



富山県高岡看護専門学校
開校(2017年4月)



母子実習室

～安全・安心、広域連携～

安全・安心は、全ての地域社会活動の基本です。災害への対応はもとより、消防指令業務の広域的な一体的運用や急患医療センターの改築、市民病院に最新鋭医療機器の導入するなど、医療・救急体制の充実に努めました。また、広域的な連携を図りながら、市民生活に欠かせない廃棄物処理など、循環型環境社会の形成を図りました。



高岡市民病院包括的がん医療センター開設
(2016年10月)



市民病院に最新鋭 内視鏡手術
支援ロボット da Vinci (ダヴィンチ) Xi を導入
(2019年9月)



とやま呉西圏域連携中枢都市圏発足(2016年10月)



高岡広域エコ・クリーンセンター竣工(2014年10月)



高岡市急患医療センターオープン
(2014年4月)



高岡市新防災センター供用開始(2020年10月)



県西部消防指令センター運用開始(2014年1月)

～世界をつなぐ～

伏木港が開港120周年を迎え、日本海側総合的拠点港を通じて世界に開かれた高岡市は、姉妹友好都市交流などを通じ世界と交流してきました。多くの外国籍市民と多文化共生のまちづくりを進めています。



ミランドポリス姉妹都市
提携40周年記念訪問
日本語学校との交流
(2014年8月)



高岡市・錦州市友好都市提携30周年記念
高岡市日中友好親善訪問団が訪中(2015年8月)
(錦州市にて)



アジア最大級の外国客船
「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」入港
(2013年9月)



伏木富山港が総合的拠点に選定
(2011年11月)



米国フォートウェーン市との
姉妹都市提携40周年記念式典(2017年5月)
(高岡市にて)



国境なきUndoukai開催
高岡に住む外国人と大運動会(2017年8月)

創る ～交流と賑わいの拠点づくり～

北陸新幹線開業を契機に、高岡の都市構造も大きく変革しました。日常の交通結節点となる高岡駅には、あいの風富山鉄道(旧北陸本線)や万葉線、バスターミナルが集結し、その周辺には、商業機能やホテル、マンション、銀行本店など高度な都市機能が集約されました。広域的な交通結節点として整備された新幹線新高岡駅から高岡駅、既成市街地を経て、歴史・文化の磨きがかかる歴史ゾーンに至る都心軸に沿って、都市機能の集積が進みました。

これらを通じ、地方創生、移住・定住の受け皿として、人口減少社会においても持続可能なコンパクト・アンド・ネットワーク都市づくりの礎を築くことができました。



高岡駅周辺整備事業完成
オープニングイベント(2014年3月)



クルン高岡地下街フルオープン(2014年6月)



新氷見線ホーム供用開始(2010年8月)



高岡駅橋上駅舎・万葉ロード
供用開始(2011年8月)



JR城端線・氷見線観光列車
「ベル・モンターニュ・エ・メール」出発式(2015年10月)



山町ヴァレーグランドオープン(2017年11月)



御旅屋セリオに高岡地域地場産業センター
ZIBA移転(2020年10月)

藤子・F・不二雄さんのふるさと

「高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー」が誕生しました。市内各地にも、代表作「ドラえもん」をはじめ、先生ゆかりのスポット、オブジェが配置され、「ドラえもんに出会える街」として、全国、世界各地から多くのファンの皆さんに訪ねていただいています。



ドラえもんの日時計贈呈(2009年12月)



ドラえもんの散歩道ウイング・ウイング高岡
に移設(2011年8月)



ドラえもんポスト設置
(2013年12月、2014年3月高岡駅に移設)



万葉線ドラえもんトラム
運行開始(2012年9月)



高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー
オープン(2015年12月)

～生活・産業の基盤づくり～

北陸新幹線の効果を発現するため、生活・産業基盤の整備も急速に進みました。新幹線(新高岡駅)とのアクセスのため、能越自動車道・主要国道の整備とともに、これらに直結する地域高規格道路や都市計画道路、伏木港方面などに骨格的な道路整備を進めました。あわせて、JR城端線新高岡駅の設置や高岡駅間には定時定速のバスアクセスを確保しました。これらの交通基盤を活用して、飛騨(白川郷、高山)、能登(和倉)方面への高速バス交通も構築されました。



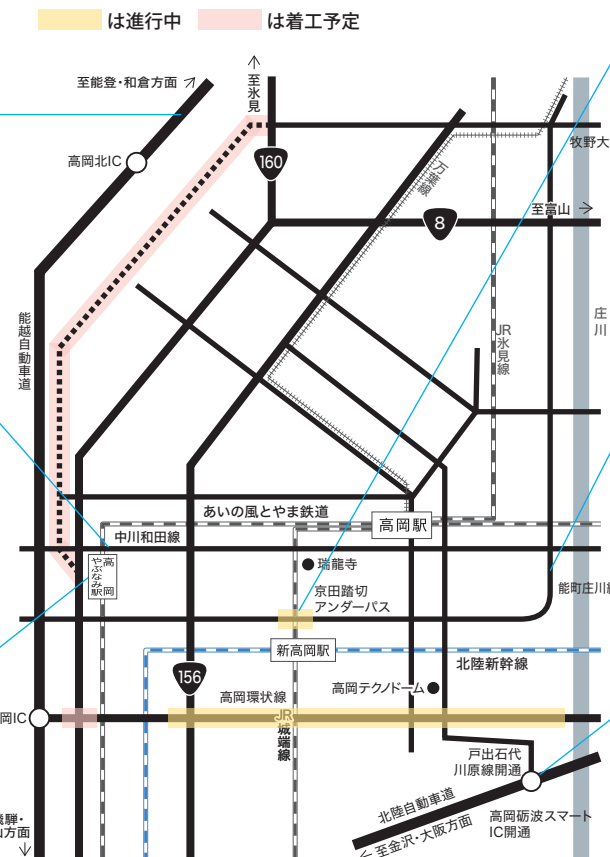
能越自動車道七尾氷見道路全線
開通(2015年2月)



都市計画道路中川和田線
(羽広高架橋)開通(2015年3月)



高岡やぶなみ駅開業
(2018年3月)



下伏間江福田線立体交差(京田踏切アンダーパス)
整備工事一部共有開始(2021年6月(予定))



都市計画道路能町庄川線開通
(2014年10月)



北陸自動車道
高岡砺波スマートインターチェンジ開通
(2015年3月)

～北陸新幹線開業～

高岡及び県西部地域の経済、社会活動に大きなインパクトを与えている北陸新幹線は、半世紀にわたる多くの皆様の取り組みにより、大きな喜びの中で平成27年3月に金沢開業を迎えました。

以来6周年を迎え、多くの交通・産業・生活の基盤形成の引き金となりました。人の流れ、特に首都圏との交流が拡大し、観光や移住・定住のあり方にも変化が現れています。企業誘致、経済投資の面でも、産業団地への立地推進などに大きな効果を見せ、地域産業の新規事業開発、起業・創業を後押ししています。



北陸新幹線開業イベント



北陸新幹線開業 かがやき出発式、
開業セレモニー(2015年3月)

高橋まさき市政12年のあしあと

改めて、3期12年のBefore-Afterを見比べてみましょう。

高岡駅・新高岡駅とその周辺

目に見えて変わったのは、なんと言っても高岡駅や新高岡駅とその周辺です。

かつての高岡駅駅舎、ステーションビルは、橋上駅舎、南北通路(万葉ロード)の整備により、「クルン高岡」として生まれ変わりました。また、駅に隣接して生じた旧JR用地などの低利用地には、富山県高岡看護専門学校などが入居するソラエビルやホテル、マンションが建設され、老朽化した駅前ビルは、銀行本店として整備されました。



かつての高岡駅周辺



現在の高岡駅周辺(2021年3月)

高岡駅周辺



DUOビル(2015年1月)



「ソラエ高岡」竣工(2017年2月)

新高岡駅周辺



新高岡駅建設予定地(2005年8月)



新高岡駅開業(2015年3月)



現在の新高岡駅周辺(2021年3月)

地域コミュニティの拠点形成

これからの地域の活力の源は市民の地域活動エネルギー、コミュニティの力(市民力、地域力)です。これらの活動の拠点として、各地域に活動拠点を整備しました。市内36地域の全てに市立公民館が整備されました。さらに、コンパクトアンドネットワーク構想において地域の核となる各地区に、地域活動の拠点となるコミュニティセンター等を設置しました。



中田コミュニティセンターオープン(2010年10月)



戸出コミュニティセンターオープン(2013年7月)



伏木コミュニティセンターオープン(2015年5月)



高岡市福岡にぎわい交流館竣工(2016年5月)

特別寄稿

高橋まさきを語る！



ブレイン25
稲垣 晴彦

無理強いして成績表を見せてもらったのは、50数年前、所々肥えの香りが漂う中学からの下校路だったと思う。正直、こんな賢い奴がいるのかとショックを受けた事を今でも覚えている。

以来、高校、大学と一応は同じ学校に進学したが、彼はピン、こちらはキリで、また、文系と理系と分かれた事もあり、個人的に会う機会はそう頻繁には無かった。

その付き合いが復活したのは、約20年前、彼が新潟県の副知事に就任した頃からで、特に総務省に戻ってからと退官後の財団勤務の時代には、何度も東京で酒を酌み交わした。彼に勝っていたのは髪の毛の色ぐらいだったので、お店の人には「今日は学生時代の恩師と一緒にだから」などと馬鹿な冗談を言っていたが、彼は温和な笑顔で泰然としていた。当時の高岡市長で、私の会社の役員も務めて頂いていた橘さんも同席してもらったこともあったと思う。このようなご縁もあり、その後、橘さんが衆議院議員に出馬することが取り沙汰されている時、さすがにご本人同士が直接連絡も難しいかと思い、僭越ながらもお二人の思いを伝える仲介役もさせていただいた。

市長就任後には、高校の時の同級生で、卒業年次にちなみ「ブレイン25」という高橋市長を支援する組織が作られた。今は亡き豊本君、高木君を始め、瀧川君や樋詰君など多くの同級生が名前倒れとは知りつつも足りない知恵を絞って高橋市長を支えたのも、彼の人徳だったと思う。

3期12年の市政運営については様々な評価があると思うが、この間に新幹線、既存の高岡駅前、様々な歴史的遺産など多くのインフラやハードが整備されたのは事実である。昨年の夏頃から、次世代の高岡のリーダーの可能性のある人、数人からお話を聴く機会があった。

多くの人が課題としてあげたのは、高岡市民のシビックプライドであった。県都富山市との競争意識を断ち切って、真の高岡市としてのアイデンティティを強固なものとしなければ、次世代高岡の発展、県西部地域の盟主としての確立は不可能と思われる。

中国では、長い歴史の流れの中で数多くの王朝が興亡を繰り返したが、前の王朝の歴史は交代後50年経たないと作成されないと言われている。高橋正樹市政も後年、高く評価されるものとたく信じている。

おすすめ散歩道 Vol.6

今回の散歩はちょっと遠出して戸出へ。富山県初の鉄道として開業した中越鉄道(現城端線)戸出駅から出発。この駅舎のレトロ感がたまりません。真っ直ぐ歩くと、秋葉三尺坊大権現が祀られ「神憂火防の誓願」が目と心に留まります。T字路で、モツうどんで有名な「風月」を横目に左に曲がると、目の前にまたまたレトロなバス停が。隣は郵便局だった母の生家。今は更地で、隅っこにはこの家の歴史を見守っていた柿の木がポツンと。甘い水島柿だったな。いとこ達と縁側でシャボン玉をしたり、蚊帳で寝たのが楽しかったな。ドラえもののどこでもドア(戸)で(出)かけたように幼い頃の思い出や街の様子が蘇ってきました。

向かいの金物屋は昔のまま。何軒か先には一番楽しみだったおもちゃ屋さん。その先の四つ角にあった紫蘇の餅が名物な和菓子屋、斜めの薬局。鮮やかな映像が脳裡に焼きついています。四つ角を更に南へ行くと、加賀藩の殿様の休憩所の正門だった御旅屋門があります。

四つ角に引き返して、東西に店が並ぶメイン通り。七月には色とりどりの七夕飾りが華やかです。道すがら呉服店の看板や、床屋の青赤白のサインポールが目につきます。戸出の人はオシャレですね。

そして和菓子も魅力的。「けんつば」の食べ比べがおすすめです。通りを東に向かい商店街の端から線路に沿って駅のほうへ。戸出の新名物ジェラート店もあります。あなたにとって大切な場所、その思い出を辿ってお散歩しませんか？(高橋 陽子)



戸出駅

最初で最後の編集後記

ブレイン25 樋詰 豊

12年前の4月下旬、突然ミニ同窓会の案内があった。高橋まさきが高岡市長選に出馬を検討中らしい。それまで同窓会には必ず出席してくれていて、立ち上がるのなら担がねばと思った。選挙戦では同級生は高木君が中心となって世話をした。選対を務めていただいた皆様には本当に良くしていただき、当選した。

市長の趣味は「友人達との語らい」。選挙戦の時は「しゃべっているときはうんうんとうなずいてくれ」と言われて領き役となり、市長になってからも、集まるのが何かしら支えの一助になるならと事務所に顔出ししていたら、せっかく集まるのだから何か仕事をと、専ら豊本君が担っていた「タカハシ・マガジン」の編集作業を、同級生グループで引き継いだ。

60代になると、豊本治君、高木信次君をはじめ何人かの同級生が鬼籍に入り、いつのまにか旗振り役が回ってきた。「担ぐ人がいる幸せ」、振り返れば高橋まさきが高岡市長になったからこそ経験できたことが多々あり、高岡の変貌も見せてもらった。「タカハシ・マガジン」も、同級生のみならず、歴代の高橋事務所事務局長やアイディア溢れる編集関係者のご尽力で、月号なんとか期日に間に合った。今回もお読みくださりありがとうございました。